

「浙江大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学法学部 1年 日下部 春野

今年は例年よりも申込者が多かったにも関わらず、運よくこの浙江大学スプリングスクールのプログラムに参加させていただき、多くの学びを得ることができた。

このプログラムには、京都大学、東京大学、静岡県立大学の学生が参加した。浙江大学へ留学しに世界各国から来ている学生のための中国語の授業に、短い間ではあるが混ぜてもらった。その他の時間には、杭州の名所を見学、観光したりする時間や、休日には遠出をする機会もあった。日本の文化との違いを感じる部分が多く、興味深い経験ができた。また、自分は英語や中国語がまだまだ自在に使えないことを痛感させられたため、日本に帰ってからもっと英語や中国語を勉強して上達したい、という気持ちに火が点いた。そして、中国への愛着がわき、また来たいと思えた。

わたしがこのプログラムで学んだことで一番大きいのは、積極的にコミュニケーションをとることの大切さである。浙江大学の同じ中国語のクラスには、世界各国から来た留学生が集まっていた。彼らはみな親切で、初対面のときから親しげにあいさつしてくれ、教科書を持っていないわたしに、嫌な顔ひとつせず何度も教科書を見せてくれた。また、授業中の先生の問いかけに対してみな積極的に声を出して解答しようとしていた。日本人というものはこう、という風にひとくくりにしてしまう考え方はわたしは好きではないが、それでも、日本人の、遠慮がちになってしまい、自分から積極的にコミュニケーションをとろうとしない国民性のようなものを、彼らの様子を見ていて感じさせられた。彼らを見習って、わたしも進んでコミュニケーションをとろうと考え、行動できたのはよかったと思う。そうすることで、得られる喜びはそうしないときの何倍にもなると思った。そして、無知を恐れなくて、わからないことがあったらすぐに周りの人に聞く、ということも大切だと実感した。自分から行動しなければ何も始まらない。現地のお店の店員さんもみな親切で、わずかしか中国語を話せないわたしにはその優しさが身に染みた。彼らのおかげで自分もできる限り伝えようと努力することができた。自分とはときどき内向きになってしまうことがあるけど、それを直そうと思えた。

また、今回のプログラムでは、お世話になった浙江大学の方々や、同じプログラムの参加者など、たくさんの人に会うことができうれしかった。そして、彼らの中には自分の学びたいことや好きなことに素直に向き合っていて、一生懸命勉強している人が多く、それに刺激されて自分の勉強したいことや今後の留学のこと、進路についても考えさせられる思わぬきっかけとなった。

わたしは、今回の経験を自分の人生にとってより一層価値あるものにできるよう、努力していきたいと考えている。